



ウガンダ都市零細金属加工業における学びの空間

—正統的周辺参加の正統性とは何か—

山崎裕次郎

名古屋大学 博士課程

E-mail: yamazaki.yujiro@j.mbox.nagoya-u.ac.jp

はじめに

- ウガンダ都市零細企業における徒弟制での学習に焦点
- 徒弟制：親方の背中を見て見習いが学ぶ技能継承
- その性質上、学習実態が非定型で捉え難い。
- アフリカ諸国の若者の基礎教育修了数は増加しているが、専門的な技能は徒弟制による獲得が多くを占める(Oketch 2018)。
- ウガンダの首都カンパラにおいて、零細企業に従事する労働者の割合は半数を越すと報告 (Hobson and Kathage 2017)。
- 徒弟制としての技能形成は、零細企業が多いアフリカ諸国では今後も重要な役割を果たす。

正統的周辺参加 (Lave & Wenger 1991)

- 新規参入者は周辺のな実践から参入
- 参加実践による協同＝実践共同体
- 徐々に複雑な作業に従事することで十全参加



- いかなる周辺参加も正統的な学びの実践に
- 正統性が帯びることで、当該社会的世界に自らを位置づかせる
＝実践共同体内でのアイデンティティ形成

正統的周辺参加

- 正統的周辺参加の「正統性 (Legitimacy)」とは

古参者の矯正が新参者に内面化、
共同体の規律に従属する客体
(田中 2018)



周辺参加のみに焦点を当てた結果、親方の位相が曖昧
現場の 相互行為を見る必要(竹内 2011)

本研究の目的と問い

正統的周辺参加では十分に議論されていない親方と見習いの上下関係に関する相互行為を明らかにする

- ①都市零細金属加工の作業場における見習いは実際にどのような作業を周辺参加として行い、
- ②そこに親方はどのように介入しているのかを問いとする。

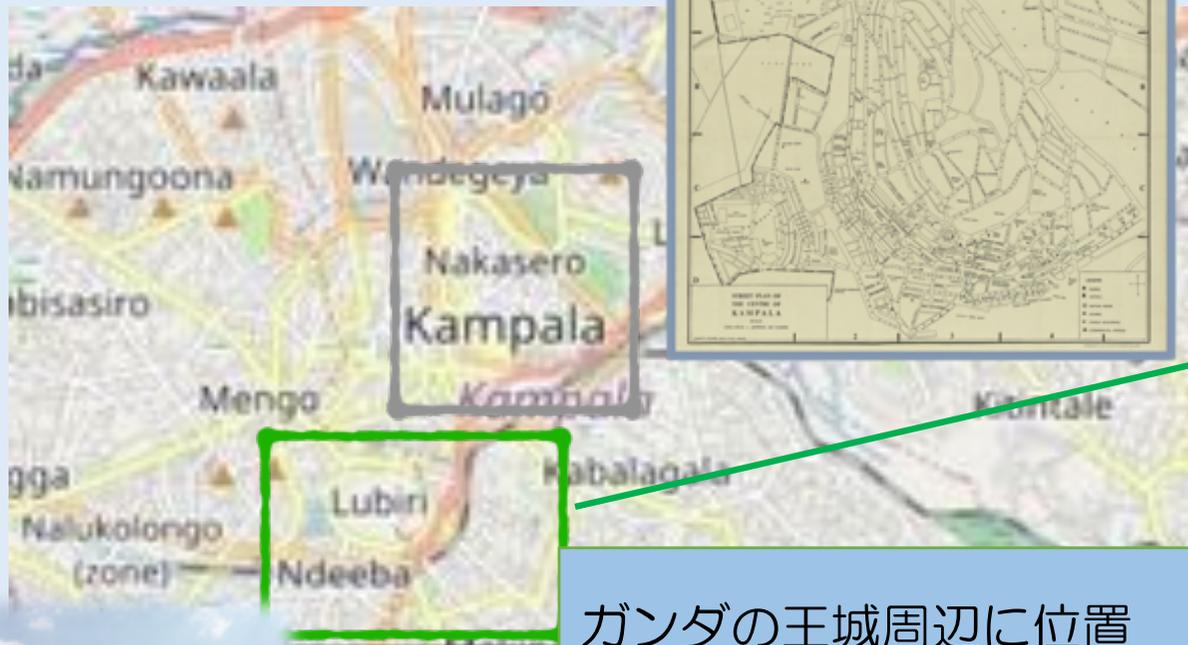
調査概要

- ウガンダ共和国首都カンパラの零細金属加工業クラスター：カトウェ地区
- 2019年10月から2020年3月
- 参与観察と聞き取り調査
- 8つの作業場（後述）を対象



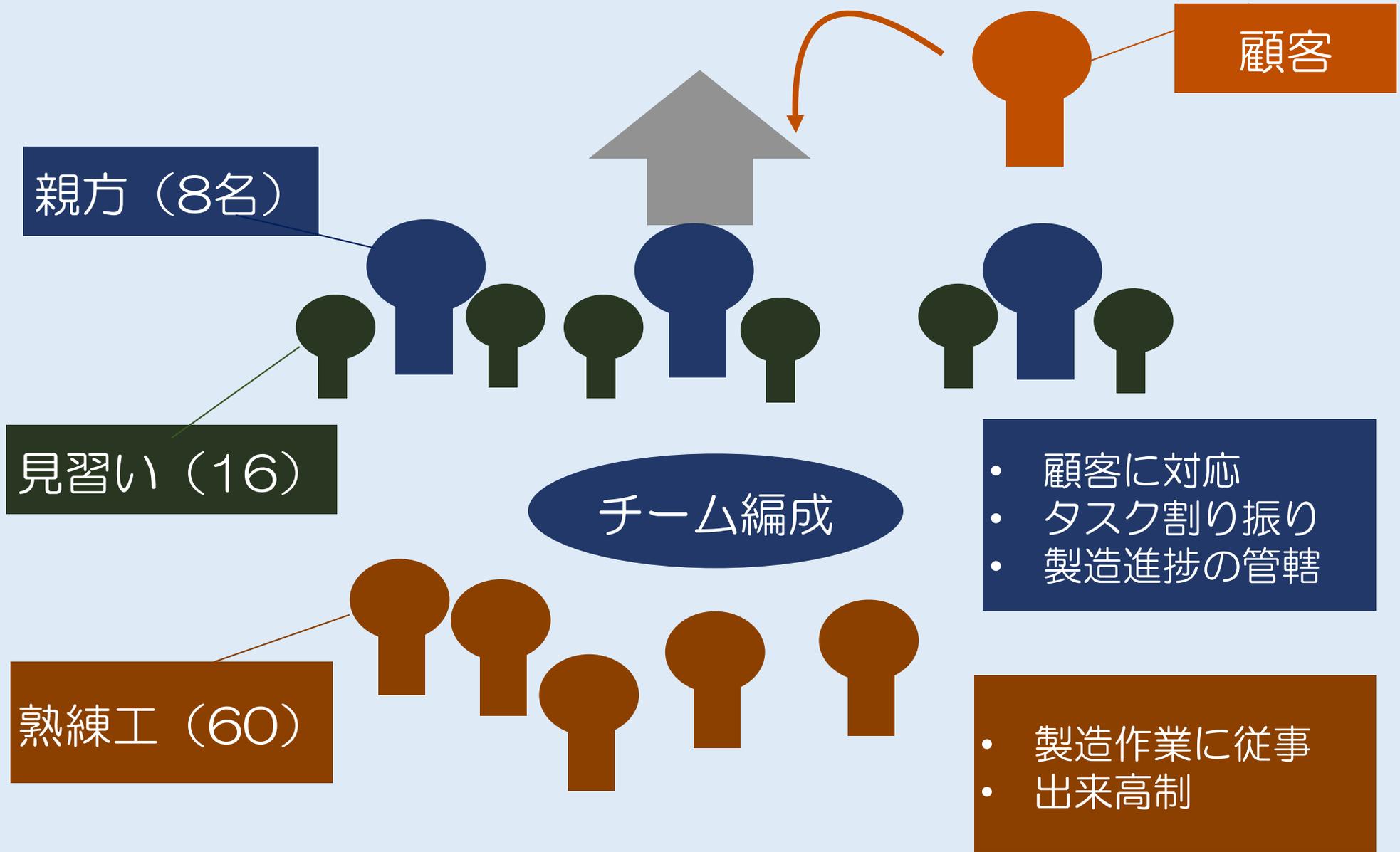
調査地について

英国保護領時代の都市計画
出所：ウガンダ国立図書館資料



ガンダの王城周辺に位置
保護領時代から現地のガンダの人々の鍛冶場が集中
その名残から今でも金属加工業の零細企業集積地と
なっている(Kintu 2019)。

調査作業場の組織構造



見習いの作業



材料切断



3ヶ月～

溶接
研磨

熟練工の
サポート

塗装



汚れ落とし

資材運び



親方のタスク割り振りの判断基準

- 見習いの単純作業を行う期間は大体3ヶ月ほどと目処
- 3ヶ月経つと、溶接や研磨といった複雑な作業タスクを見習いに割り当て
- 3ヶ月という期間や、複雑な作業をするために必要な技能の判断基準は、厳格ではない。
- 作業場の繁茂状況や、熟練工の人数バランスによっては、技能が十分でなくても複雑なタスクを任される場合や、技能が十分でも単純作業に留まる場合もある。



繁忙期のベッド製作
撮影：筆者 2020年12月

昇進のための自発的追加作業

8:00

準備

9:00

始業

11:00

休憩

13:00

昼休憩

18:00 ~ 19:00

片付け

7:30

雨天撤収作業

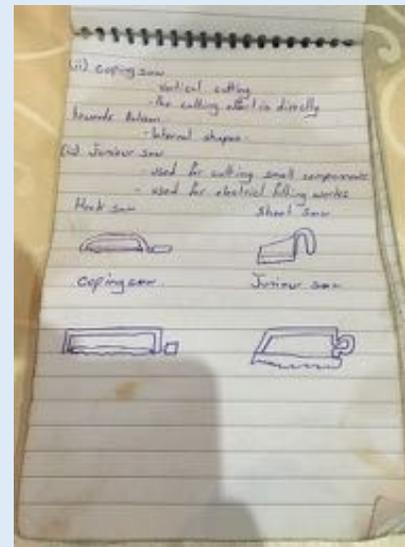
機材の移動



見習いイスマ（16）（参入した当時）

- 初等教育修了し、親戚の紹介で当作業場に参入
- 家族と共に作業場近くに住む。
- 家族への仕送りを増やすために早く昇進することを望む
- 積極的な自発作業から3ヶ月で複雑な作業にも従事して技能形成を順調に進める

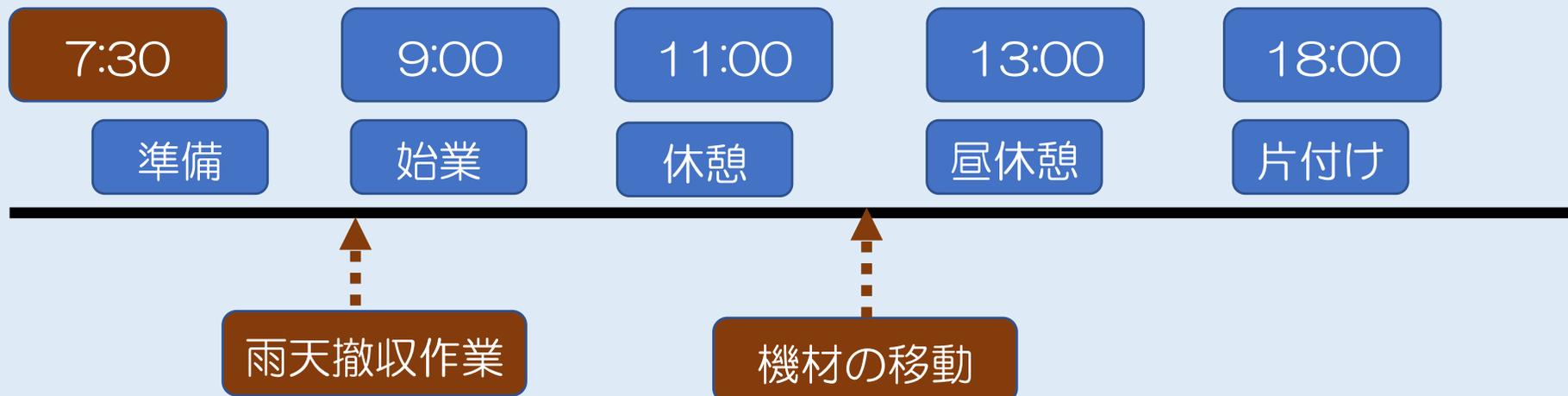
撮影：筆者 2019年11月



真摯にメモを取ったイスマのノート

撮影：筆者 2020年1月

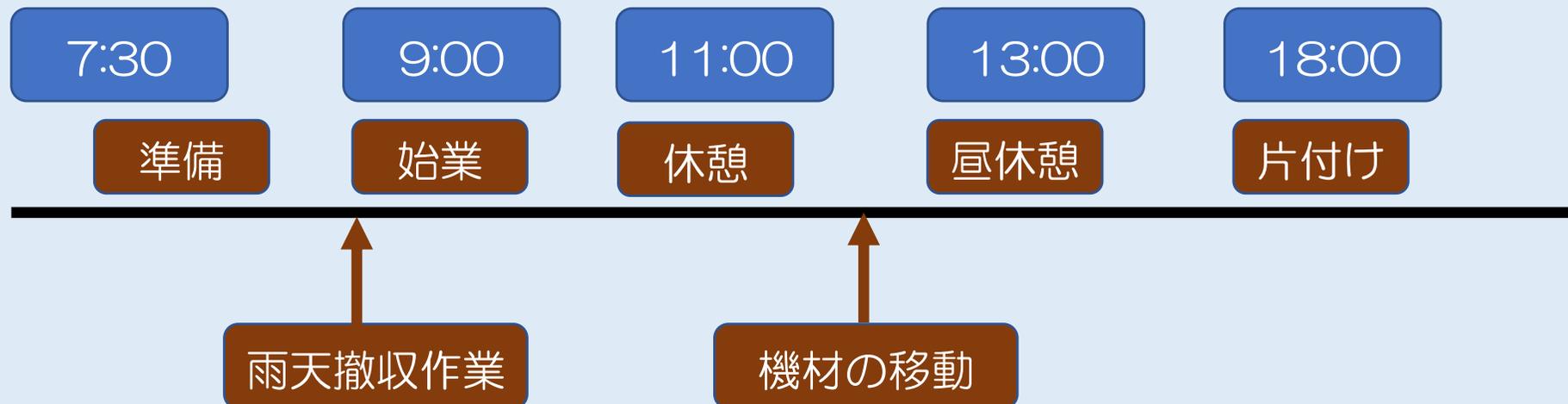
自発的作業を他の見習いも追従



- 他の見習いも評価されるべく、追うように自らの作業に追加
- その結果、見習い全員が行っている作業へ
- 行わないと、親方は「昨日できていたのに、今日できていない」とみなし、指示

「昇進のための自発的作業」
→ 「指示されやるべき作業」

自発的作業から指示されるタスクへ



多忙さを役割として引き受ける

「いずれ昇進したら多忙ではなくなる」
「他に仕事がないから、今はこれしかない」

多忙さから逃れる

「忙しいのに給料が低い」
「他に仕事が見つければ、やめる」
→知人から紹介された露天商やバイクタクシーへ

熟練工に愚痴・相談

溶接を支える時に忙しさを話す

「話したら、気晴らしに溶接を教えてくれたり、付き添いで他の作業場に連れて行ってもらえる」

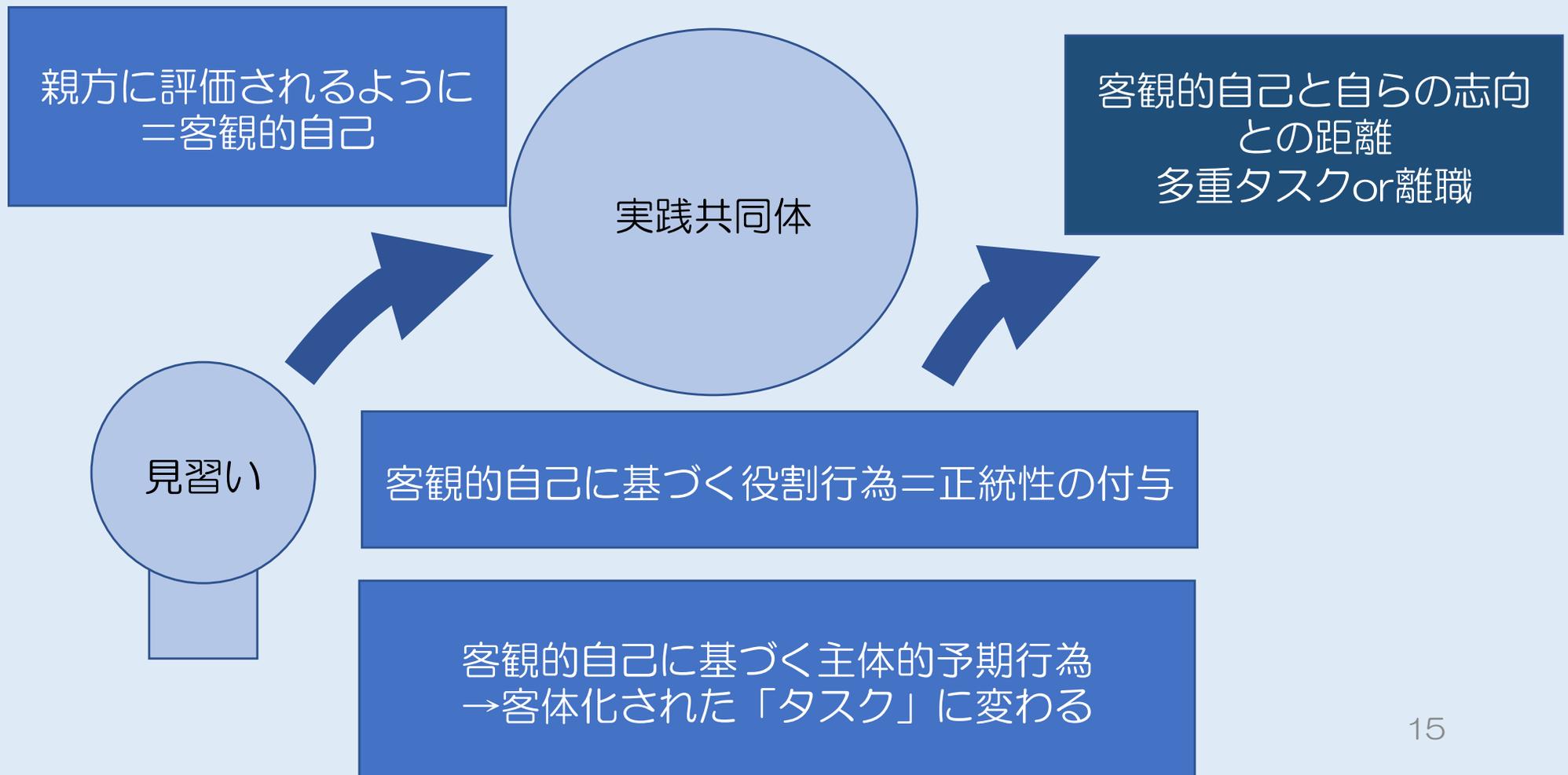
5. 考察

行為順序・評価基準の一方向性：「先回り服従」

- 親方の上からの介入はタスク割り振りのみ
- 指示された単純作業の他に、「早く昇進するように」と自主的に周辺作業を増やす
- 親方のタスク振り分けという「後続する行為」を「予測した行為」
- それは、もし単純作業のみでも変わらない時期に昇進できるとしたら、「行わなかったはずの行為」
- 見習いの行為が先立ち、それに後続して親方の判断があるように、見習いから親方への一方向的な時間差のある行為順序・評価基準が起因

5. 考察

背中を見られているように学ぶ：Legitimateされる客観的自己に基づく行為



結論

- 零細業と徒弟制の重要性
- 正統的周辺参加における上下関係が先行研究で指摘

- 上からの介入なく「予期した行為」による共同体への従属
- 客観的自己表出の意図せざる結果としての多重タスク

- 親方による権威的な介入はない
- 「予測した行為」によって周辺作業を自発する見習い
- 自発的行為が正統的に新たなタスクに

今後の研究

中間存在としての熟練工
との関係

作業場規模の影響

職業訓練校との関係
シグナリング

参考文献

Davies, B. 2005. Communities of practice: Legitimacy not choice. *Journal of Sociolinguistics*. vol. 9 (4), pp. 557-581.

Hobson, E. S. W. and Kathage, A. M. 2017. *Uganda - From regulators to enablers: role of city governments in economic development of greater Kampala* (English). Washington, D.C.: World Bank Group.

Kintu, D. 2019. Exploring the Effectiveness of Informal Apprenticeship in a Community of Practice: A Case Study of Katwe, Kampala-Uganda. *African Journal of Teacher Education*. Vol. 8. pp. 238-253.

Lave, J. and Wenger, E. 1991. *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge University Press: Cambridge. (佐伯胖訳『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』産業図書, 1993年)

Oketch, M. 2018. Learning at the bottom of the pyramid in youth and adulthood: a focus on sub-Saharan Africa. Wagner, D. A., S. Wolf, and R. F. Boruch (Ed.) *Learning at the bottom of the pyramid Science, measurement, and policy in low-income countries*. Paris, UNESCO, pp. 197-223.

Trowell, M. 1941. Some royal craftsmen of Buganda, *Uganda Journal*, Vol.8 (2) pp. 49-61.

竹内一真, 2011 「専門家の技能に関する先行研究と現在の動向 : ポスト正統的周辺参加論における「教え手」の位相」『京都大学大学院教育学研究科紀要』57号, pp. 407-419.

田中雅一, 2018 『誘惑する文化人類学 コンタクト・ゾーンの世界へ』世界思想社.